



## 天邪鬼とSF

小川 翔太 (映像学)

はじめまして。新しく映像学に加わった教員です。日本では親しみの薄い「映像学」、根っからの映画愛好家（シネフィル）でないと入れないと思われては困ります。そこで『ゴースト・イン・ザ・シェル』実写版を例に、敢えてアンチ・シネフィル的映像学のすすめを試みます。

主人公の「少佐」役にスカーレット・ヨハンソンが抜擢されたことが SNS などで批判され日本でも話題になりました。押井守のアニメ原作では日本人の「少佐」をなぜ白人女優が演じるのか。『ブレード・ランナー』から数年前の『クラウド・アトラス』まで、異種混淆的未来を描いた SF では都市空間だけはアジア的（香港的）で、活躍するスターは白人という定型が形成されています。白人社会のハリウッドで端から主演の機会が限られたアジア系の俳優には不利な状況といえるでしょう。とはいえ、物語世界のロジックでは身体は交換可能な義体であり、「少佐」の人種にこだわることはないとするファンの主張も理解できます。

マイノリティ俳優にフェアな業界を求めることは、SF 世界の自由な発想を尊重することと相容れないのでしょうか。そんな疑問を持ったままクレジットを眺めていると、キャストが意外に少なく、逆に VFX 担当が多いことに改めて気付かされます。VFX で同じ画像を再利用するなどして生身の役者にかかる人件費を抑える戦法はデジタル時代の映画の特徴です。とすると、この映画は近未来の話ではなく、目の前で進行する映画産業の脱労働者化の寓話とも読めます。あくまでこの映画を労働機会の問題として捉えたスカヨハ＝「少佐」反対派も、SF 的発想を無視するどころか、むしろサイボーグ時代の問題を鋭く突いているのではないのでしょうか。（画像は『ゴースト・イン・ザ・シェル』ポスターを筆者が編集）



分野・専門紹介—File5

## 漢字の大海を泳ぎ、書物の高峰に登る

分野・専門名：中国語中国文学

文学部中国文学研究室は、これまで古典語学及び古典文学を専門とする教員のみでしたが、このたび中国語中国文学分野・専門となって、白話文学、現代中国語学、近現代中国文学を専門とする教員が加わり、中国語学・文学分野のほぼ全領域を網羅する体制となりました。国立大学の中国語学・文学が学べるところで、これだけスタッフが揃っているところはそうありません。

そもそも、中国語とはどのような言語でしょうか。高校までで教わってきた漢文は、古典中国語であり、もっぱら文章を書くための文章語でした。専門用語で文言といいます。唐宋時代以降になると、当時の口語体である白話でも、文献が残されるようになりましたが、正式な文章を書くものではないとされてきました。そして、近代以降は、言文一致運動があり、口語で文章がしるされるのが正式となりました。そのため、現代中国語を学んだだけでは、中国古典の文章は読めませんし、漢文が読めるだけでは、白話や現代中国語の文章は読めません。どれも読めるようになるのが目標です。その上で、自分が



気になる言語現象や文学テキストの分析をしていくこととなります。

文言でも白話でも、現代中国語でも、すべて漢字で書かれているのは同じです。漢字の大海原を泳がなくてはなりません。そして、中国では、四千年弱の文字及び文学の歴史があるなかで、膨大な量の書物が著されてきました。一つのことばや文を読み解くために、幾つもの文献を参照しなくてはいけないことがままあります。中国語中国文学分野・専門は、文学部第二位の蔵書数を誇り、リテラポには本があふれています。その本の山を一步一步登っていった先に、新しい読みの世界が広がっています。（佐野 誠子・准教授）

分野・専門紹介—File6

## フィールドから学ぶ

分野・専門名：地理学

「そこに山があるから登るのだ」という登山家の言葉があります。きっと、山を愛する人々が共有する感情なのかもしれません。では、なぜそこに山があり、山の向こうに何があるのでしょうか。それは、わたしたちの生活とどのようにかかわるのでしょうか。地理学は、そんな、誰しもがもつ素朴な想像を、場所や地域、環境や景観といった考え方を通じて総合的にとらえる学問です。身近な地域における人々の暮らしから地球規模で起こる気候変動や食料問題まで、世界の中の様々な現象を空間というプリズムによって鮮やかに映し出す、それが地理学なのです。

そのため地理学では、フィールドワークが重視されます。フィールドには、自然との触れ合い、そして人との触れ合いがあり、そこから多くを学びます。地理学専攻の2・3年生は、4泊5日の野外実習でフィールドワークに初めて挑みます。楽しいことばかりとは限りませんが、それまで気がつかなかった地域の素顔が見えてくる喜びは、なにごとにも代えがたい経験になります。そして、その調査結果は、地理学理論や地理情報システムの授業を通じて修得される方法によって分析され、学生自身のオリジナルの研究論文として仕上げられます。



地理学教室は今年度から教員が増強され、地理学の学部教育プログラムとしては全国の国公立大学でトップ3に入る規模になります。数万年間にわたる環境の変動を地形や堆積物の分析から解明したり、住民の生活リズムを追跡しながら現代都市の問題を探求したり、農業や漁業の営みの中に自然とのかかわり方を見つけたり、町や村の過去の姿を古い絵図から復元したり、どの教員の研究も現代地理学の最先端を切り拓くものばかりです。このように、様々な現場において、この世界のなりたちをともに考える諸君を、わたしたちは歓迎します。（高橋 誠・教授）

最近の文学部

## 初夏の名大キャンパス散策

東山キャンパスには実は珍しい植物、昆虫、鳥類が生息するそうです。附属図書館前からのびるグリーンベルト、東端は自然の森へと続きます。カフェやコンビニも点在する、入場料不要の自然公園、この季節には気持ちのよい散歩道です。(YK 記)

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)